

5歳児のアプローチカリキュラム

「アプローチカリキュラム」において、Ⅲ期(10~12月)に計画する「人とのかかわり」に関する内容については、以下のような視点で活動を展開していきます。

アプローチカリキュラムで大切にしたい活動のポイント	生活 …… 修了や就学に向けて、クラスで集まり落ち着いて取り組む活動
	人とのかかわり …… 互いに思いを伝え合い認め合い友達とのつながりを感じられる活動
	学 …… 共通の目的や課題に向かってやり遂げた喜びを味わう活動
環境や援助、幼児期の終わりまでに育てたい姿との関わり	

人とのかかわり

- ・話し合いでは一人一人のイメージや、みんなで作り上げたイメージなどをまとめながら、自分たちで取り組んだ充実感が味わえるように援助する。
- ・一人一人が頑張っているところや、力を発揮しているところを認め、全体に伝えながら、友達のよさに気付くようにする。
- ・友達の力を認め合い、つながりを感じながら、自分の力を発揮する楽しさを味わえるような運動遊びの場、遊具、用具の準備と共に、身近なごっこ遊びが充実するように配慮する。
- ・自分たちで進めていこうとする姿を認めながら、一人一人の思いや考えが出せているのか、話の内容や目的が共通になっているのかなどを捉えて援助する。
- ・思いや考えを自分の言葉で相手に伝えられるように、言葉を付け足し、確認しながら、幼児の言葉を引き出していく。

担任は「どういうしくみなの?」「こういうルールなんだね」など言葉を掛け、子供の思いを認め、紹介していきます。

なるほど「この考えを組み合わせると面白くなりそうかな」「みんなの考えを入れたゲームになるように相談できるといいね」などの言葉を掛けて、みんなで作り上げていくイメージを意識できるようにします。

＜アプローチカリキュラム一部抜粋＞



「生活」「人とのかかわり」「学び」の3つの柱を通して、幼児期から小学校への円滑な接続を図ります。

台東区の小学校では、「新一年生保護者会」において、入学に向けて家庭で取り組んでいただきたいことや小学校生活の様子を説明しています。台東区幼児教育共通カリキュラム「ちいさな芽」では、小学校への円滑な接続を図るために、幼児期での経験や学びを重視しながら、「小学校入学までに一人でできるとよいこと」として示しています。日頃から園との連携を取りながら、お子さんが入学に向けて、安心感や期待感を十分もてるように、成長を支えていきましょう。

小学校につながる5歳児の保育事例から

5歳児では、3つの柱に基づいた保育を通して、小学校教育へつなげる力を身に付けることができるよう指導や援助をしています。

生活 見通しをもって生活しよう

見通しをもって園生活を送ることができるように、保育室内に時計を掲示して、時間や今日の予定を確認しています。また、当番活動を分担して行うことで、人の役に立つうれしさや友達と協力して活動することの楽しさを味わったり、責任感を育てたりしています。



小学校とのつながり

見通しをもって生活する習慣を身に付けることで、小学校においても規則正しい生活を送ることができます。また、友達と協力して行った当番活動の経験は、子供たちが主体性や協調性をもって学習や生活に取り組むことにつながります。

人とのかかわり グループで絵をかこう

友達と関わる楽しさを実感できるように、1枚の紙面をグループで共有して、互いに思いを伝え合いながら一緒に絵をつくりあげています。共通の目的に向かって協力して活動する中で、子供たちは友達のよさに気付いたり、互いに認め合ったりしています。



小学校とのつながり

協同的な遊びの経験は、自分の思いを出しながら、友達と折り合いを付けて生活することに生かされます。また、友達のよさを感じたり、互いに認め合ったりする経験を重ねることで、友達を大切にできる気持ちが育っていきます。

学び サツマイモがとれたよ

秋には、園内外で育てたサツマイモを自分たちで収穫する喜びを味わいます。芋のつるを使って遊んだり、リースを作ったりします。また、下学年も招待する会食を計画し、芋の数を数え、大きい芋と小さい芋に分けるなど、数量に親しんだり活用したりしていきます。



小学校とのつながり

身近な日常生活の中で様々な活動に興味・関心や探究心をもって関わる中で、数量や図形、文字などに関する感覚が豊かになったり、必要に応じてこれらを活用したりします。これらの経験が土台となり、小学校での学習活動に生きてきます。

入学前の経験・学びを生かした小学校の事例から

小学校では、園で経験した内容や様々な学びを取り入れながら、指導や支援をしています。

生活 当番や係の仕事をしっかりしよう

給食当番や係活動において、自分の役割を意識して取り組むことで、学級の一員としての自覚が高まり責任感が育っていきます。また、準備や片付けを友達と協力して行ったり、決められた時間内で取り組んだりすることで、やりがいを感じ、友達同士で助け合うことの大切さに気付かせています。



小学校では

入学前に経験してきた様々な当番活動のことを想起させながら、一人一人が自分の役割をしっかり果たすことが大切であることを指導しています。入学前の当番活動で芽生えた協同性がさらに小学校での当番活動や係活動によって養われていきます。

人とのかかわり ゲームの作戦を考えよう

ゲームの仕方や作戦について、グループ内で話し合う活動を取り入れることで、活動への意欲が高まるとともに、仲間として団結しようとする気持ちが生まれてきます。また、友達が工夫して運動している姿や自分を応援してくれる友達がいることに着目させることで、友達を尊重しようとする気持ちを育てています。



小学校では

話し合いの中で、自分の考えを伝えたり、友達の異なる考えを聞いたりします。合意を得るために、自ら判断したり、考え直したりし、自分の考えをよりよいものにしていこうとする意欲や態度を育てています。

学び なかまづくりとかずいくつといくつ?

「どの仲間をどのように並べるか」、「仲間の数をブロックに置き換えて比べる」など、子供自らが考える場面を充実させることで、分かった喜びを味わわせる工夫をしています。友達との競争や協働での活動を取り入れることも、友達の解決の仕方に気付き、自分の学習に生かそうとする意欲につながります。



小学校では

試したり、工夫したりして遊んだ経験が、小学校の学習においても、主体的に学習しようとする姿勢につながっています。また、思考を働かせ、様々な活動に取り組んできた経験を生かし、自ら意欲的に表現する態度を育てています。

5歳児の実践事例「すごろくを作ろう」

アプローチカリキュラムで大切にしたい活動のポイント

- やり遂げる楽しさを感じ取る→**グループの友達と完成を目指して取り組む**
- 友達の思いを感じ取る→**思いを伝え合いイメージを共有する**



他のグループの作品を見合い、よい面に目が向けられるように促し、感じたことを相互に伝え合う場をもちます。「ここは面白いなあ、と思ったところはどこ?」などと投げかけます。



活動の振り返りでは、全グループのすごろくを紹介し、他のグループのすごろくでも遊ぶなどして、面白いところを伝え合い、さらに工夫していけるようにします。

グループの友達と作ったこと、考えたことを伝え合い、イメージを共有しながらすごろくを作り、達成感を味わえるようにします。みんなで気持ちを合わせ、やり遂げる楽しさを味わう活動にできるように工夫します。

小学校入学前までに、一つ一つしっかりと身に付けることができるよう、お子さんを励ましながらか一緒に取り組んでいきましょう。